



羽生結弦さんを表紙に飾った  
仙台市政だより令和6年1月号

## 羽生結弦さんが仙台の魅力を発信!!

仙台観光アンバサダーとして仙台市の魅力発信にご協力いただいている羽生結弦さん。市政だより令和6

# かまた城行通信

【発行】  
鎌田城行事務所  
〒980-0004青葉区  
宮町4丁目8-15  
電話Fax 222-0895  
公明党仙台市議団  
電話 214-8718  
Fax 711-3454

令和6年1月2日。初売り客でにぎわう東二番町通りにて、庄子賢一県代表を先頭に宮城県本部新春街頭演説会。石川県能登半島地震で亡くなられた方のご冥福を祈り、被災された皆様にお見舞いを申しあげます。



## 街頭で活動報告

## 公明党が結党して今年で60年

令和5年12月28日。定禅寺通りにて、公明党仙台市議団で仕事納め街頭演説



## 鎌田議員の質問きっかけに広報

観光プロモーション「#ただいま仙台」や「仙台サンドめぐり」、市政だより、仙台市LINEなどを紹介する①地下鉄車内広告（南北線中吊りと東西線窓上額面に全編成の各車両）②地下鉄駅貼りポスター（黒松、旭ヶ丘、富沢駅を除く南北

線14駅と東西線全駅、仙台駅東西地下自由通路）が、昨年12月27日から令和6年1月9日まで掲出されました。さらに、③地下鉄車内ビジョンが1月1日から15日まで、地下鉄東西線モニター枠内（全編成・各車両）に掲示されています。

令和4年第4回定例会（2022年12月19日）一般質問で鎌田議員が「市営地下鉄やバス等の広告媒体としての活用を求め、「広告スペースを本市事業を市民に広く周知するために一層の活用を」と訴えました。総務局長から「活用の仕方とか、どのように分かりやすく伝えられるかデザインも含め、どういった活用が可能で適切なのか十分検討してまいります」と答弁されました。

年1月号の表紙を飾るとともに市長との新春対談が掲載されました。また、市政情報を届ける

また、市政情報を届ける

令和5年第4回定例会一般質問から(2023年12月18日)



中国の文豪・魯迅が来仙して明年で120周年。記念行事の取組み求む

【質問 鎌田城行】

昨日、宮城県日中友好協会が主催して中国語を母国語とする人々の日本語発表会が開かれました。オンラインによる「日本・宮城」をテーマに、市内在住の留学生や、中国の上海と湖北省に住む社会人、計5人が発表。視聴者は県内のほか広島県やスイスからも事前申し込みがあり、50人を超え、アニメや漢字文化、情報処理、食や風景、繋がり

や魅力など、互いの差異を認め合いながら、和気あいあいと交流を深めることができました。

この語らいの中で、高村光太郎の詩「道程」の景色が目につかびました。「・

・ 歩け、歩け どんなものが出て来ても乗り越して歩け この光り輝やく風景の中に踏み込んでゆけ 僕の前に道はない 僕の後ろに道は出来る・・・」

第二次世界大戦後、日本と中国との国交は途絶えたままでした。

当時40歳の一民間人が、1968年9月8日、1万数千人の学生を前に、日中の国交正常化の提言を行いました。「世界の民衆は生存の権利を持っている。その権利を脅かすものはこれ魔物でありサタンであり怪物である、自国のために他国を犠牲にすることは絶対に許されない。いかなる小

国と云えども大国の利益や権力欲のために断じて犠牲にされてはならない」と喝破された恩師の遺訓と世界情勢を確認したうえで、「日本がアジアの一国である以上アジアの民衆の幸福を最も重視し、最も優先することは当然の道理であり、また義務といえると思う」「およそ地球全人口の4分の1を占めている中国が実質的に国連から排斥されている、この現状はだれ人が考えても、国連の重要な欠陥と言わねばならない。これを解決することこそ、真実

の国連中心主義であり世界平和への偉大な岐路であると思います」と述べたのでした。この後、米中が先んじて国交を結び、日本も中国との国交を交わすことのできたのです。提言から4年後のことでした。今年、日中国交正常化51年。日中平和条約締結から45年の佳節を迎えました。

満帆どころか今日に至るもまた波乱万丈と言えまじょう。だからこそ、先達の叫びを思い起こすのです。国と国とが諍い冷え込んだ時こそ、大変な時こそ、足元の民間交流、文化交流、市民レベルの交流を大切にしたい。建設は死闘、破戒は一瞬だ、と。

日中関係が冷え込んでいくのをよそに、米中関係はよりを戻そうとしているやに聞こえてくるのです。魯迅来仙120年に合わせて、何かしらの記念行事など交流の機会を期待するのですがいかがでしょうか。



■答弁 郡和子市長

魯迅は1904年から1年半、現在の東北大学医学部である仙台医学専門学校

で学び、ここ仙台で文学を志しました。文豪として歴史にその名を残し、日本と中国双方で尊敬を集めています。この魯迅の存在は、本市の市民交流にとっても大切なものと認識しています。10年前の来仙110周年の際には、東北大学や

宮城県、市民団体とともに実行委員会を組織して、記念の講演会やワークショップなどを開催しました。来年の120周年を迎えるに当たり、今後、各種の記念行事について、関係者とも連携を図りながら検討してまいります。

## 高齢の方の運転免許証返納等で生じる『外出機会の抑制』への防止策

### 敬老乗車証制度の維持を前提とした制度見直しに伴う充実策

#### 市民理解を増す サービス向上の 観点から、指摘 されてきた課題 克服の取り組み

【質問 鎌田城行】

制度見直しの間際案では、交付対象年齢、年間チャージ上限額とも現行通りとしつつ、利用者負担割合を現行5%の方は10%に、10%の方は25%に、それぞれ引き上げ、利便性向上策としてチャージ場所を増設する、というものです。

12月26日まで市民意見を募集中ですが、私のもとには、激変緩和の策として、今後、段階的に負担を高めていく考えはないか。以前

からの要望は取り入れてもならないのか、という声が寄せられています。

たとえば、敬老乗車証を利用したくても利用できる機会が限られている人に対して利用の幅を広げること。仙山線や仙石線、東北本線、常磐線など「JRを利用できるようにしてほしい」、との声があります。

当初は市バス地下鉄に限られていたイクスカと首都圏ではJRのみならず私鉄

等も自由に使える自販機などにも利用できるスイカとの相互利用の市民の求めに対して、当初はできなかったものが検討が進み、いつしか利用できるようになったことを思えば、敬老乗車証のJR利用についても検討に値するのではないかと

思います。仙台市天文台を停留所に持つ「タケヤ交通」の路線バス「仙台西部ライナー」は、秋保工芸の里から蘭亭

前、緑水亭前、瑞鳳前、グランドホテル前、界秋保前、木の家前、佐勘前、秋保・里センターを経由して仙台市天文台から地下鉄広瀬通駅、仙台駅前着となります。

「愛子観光バス」も錦ヶ丘、愛子小学校前、愛子駅前、宮城総合支所前から栗生、広瀬通一番町、仙台駅前着となります。地域にとっては大切な市民の足です。

敬老乗車証が利用できる宮城交通のホームページ「よくあるQ&A」には、敬老乗車証の記載は見当たりませんが、「障害者手帳の提示で割引になりますか？」の答えとして「降

車の際、乗務員に手帳を提示して、運賃が半額になります」とあります。機械にタッチして読み取らせなくとも割引可能となるアナログな関係が認められているのです。

バス会社各社には乗車回数券も用意されています。敬老乗車証を読み取る機械が用意できないからと言って、敬老乗車証の利用対象にはできない、というのはなく、何かしら工夫をして利用可能とする検討が図られてしかるべきで、積年の課題を解消していただきたいと思えます。

とに様々な課題がある状況です。

■答弁 健康福祉局長  
昨年度実施した市民意識アンケートでも、敬老乗車証の対象交通機関の拡大について多くのご要望をいただいたところであり、路線バス事業者や鉄道事業者と、その方策等について、現行のICカード機器以外

の手法も含め、協議を重ねてきました。現状では、路線バス事業者に紙回数券を導入した場合の本市、事業者それぞれの事務負担や、鉄道事業者についても現在の敬老乗車証を用いて改札を通ることができないなど、事業者ご

今回の見直しに合わせた対象交通機関の拡大は難しい状況ですが、引き続き、各交通事業者と意見交換を重ねながら、敬老乗車証制度の導入可能性を探ってまいります。



# タクシーにも敬老乗車証が利用できるように対象拡大を

【質問 鎌田城行】

以前指摘しましたが、タクシーを利用する際に「免許返納などが認められれば割り引くサービスを実施している会社も増えてきています」ようです。

市内のタクシー会社、組合等と協定を結ぶなどして、敬老乗車証の利用対象にすべきと思います。

■答弁 健康福祉局長

タクシーを敬老乗車証の対象交通機関に加える場合、新たな需要喚起による事業費増加への対応や、制度のあり方、ICカードと両立するシステムの検討なども必要となると考えています。現時点でタクシーへの対象拡大を行うことは考えていませんが、高齢化の更なる進展により、介護給付など、高齢者施策全般の経費は増加する見通しか

ら、まずは敬老乗車証の持続性確保を図りつつ、引き続き、更なる利便性向上の検討を進めてまいります。

## 敬老乗車証を持つことで「お得感」が広がるサービスの拡充

【質問 鎌田城行】

地元企業をはじめ民間事業者の多くは、顧客サービスとして会員証などを発行し、提携企業を利用する際に特典を付与することで共存共栄に努力されており、会員も特典の恩恵を授かっています。

もし、「敬老乗車証を見せたら、ファミレスの会計が5%安くなった」とか、「デジタルスタンプラリー」に敬老乗車証の所有特典が加われば、一層、高齢者にやさしい仙台、となるのではないか、と思います。

ここは、健康福祉局と経済局あたりがタイアップし、サービス拡充を検討さ

れてはいかがでしょうか。

■答弁 健康福祉局長

敬老乗車証制度の目的は、制度をご利用いただくことにより、高齢者の社会参加を促進し、福祉の増進を図ることであります。

そうした趣旨を踏まえる

## 高齢の方の運転免許返納等で生じる『外出機会の抑制』への防止策 持続可能な公共交通網の在り方

【質問 鎌田城行】

路線バスと地下鉄のルート間の競合は、地下鉄開業時からの課題と言われていますが、人口減少社会に向かう中で限られた客を奪い合うばかりでは共倒れになりかねない、と心配の声が寄せられています。

先の質疑でも取り上げましたが、全国の路線バス事業の9割が赤字となり、滋賀県では14日に持続可能な地域交通の確保を目指す「滋賀地域交通ビジョン案」を県議会に報告し、財

広く利用される工夫を取り入れる必要があると考え、中間案で示しているチャージの利便性向上はもとより、乗車証に新たな付加価値を加えることも、そうした手法の一つになりうるものと考えます。現在も、身分証明書や敬老乗車証を提

示することで市立文化施設等の割引等を受けられる制度を運用していますが、今後、他都市や民間の事例を参考としつつ、他局とも連携しながら、公共交通機関の利用にとどまらない乗車証の活用策などについても探ってまいります。

## 源の候補として全国初の「交通税」を明記し、話題となつていきます。

採算が取れないから路線を廃止する、というのでは「交通網」の網の目が広がるばかりか「陸の孤島」が顕在化しかねず市民の足は遠のく一方です。出発地点から目的地まで乗り換えなく到着できればそれにこしたことはなく、理想でありましうが、社会情勢からは期待できそうもありません。むしろ、仙台市電が通

っていた半世紀も前のころ

この際、本市も、市営地下鉄とJRによる鉄軌道と、民間も含めた路線バス、地域交通、タクシー、ライドシェア等の道路交通とが協調性を持つ設計を構築させることで、市民のニーズに合った公共交通網を整備・維持していただきたいのです。

▼次号に続く